



地球に存在感を 発揮する大学へ

経営協議会委員
株式会社読売奈良ライフ
代表取締役社長・編集長

朝廣佳子

国立大学法人化に揺れ動く昨今だが、さらに二〇〇七年には、志願者と入学者数が一致する「大学全入時代」が来るという。そうなるとうる大学の存在意義が問われる。学生が何を望み、何を欲しているか、入学したメリットとして何が与えられるかが非常に重要となってくる。

学生が教育のあり方、教師の使命を学びながら、教員試験の合格率を高めていくことは大命題だろうが、同時に、大学自体が、地域に存在感を発揮する役割を見つけていくことが必要ではないかと思う。全国各地の大学が新たな取り組みをいろいろ始めているようだが、奈良教育大学も大きな役割を担えるはずだ。教育は今、日本社会の中で最も力を入れなければならない問題であり、不登校や非行の低年齢化は奈良も例外ではない。教師も親も子ども

もみんなで悩んでいる。大学全体

としてシンクタンクの機能を持つこと、現役教師の駆け込み寺になること、学生が地域に入って、PTCA（親と教師と子どもと地域）のコーディネーターになれば、地域も変わるし、学生も生の現場を学ぶことが出来る。教育の新しい取り組みやしくみを行政にどんな提案することもしていただきたい。奈良市で推進している音楽療法を現在、共同研究として取り組み、成果を上げている点からも、高齢化が進む中、生涯学習へもっと踏み込んだ取り組みなどを研究、共同研究するなどおもしろいのではないだろうか。

教育という人間形成の原点に立つ位置にあることに、自負と誇りを持って、守りではなく、攻めの姿勢で、大いに大学全体の存在感を発揮していただくことを望んでいる。



新生 奈良教育大学への期待

経営協議会委員

昭和女子大学 副理事長

前原金一

国立大学が生まれかわりました。しかし、今のところ各大学の動きは、混乱の中にあるようです。これまで、国がほとんど決めてきたため、余り自ら考えずに済んでいた経営問題と各大学のミッションについて、改めて真剣に考え直すことが求められています。

ース）、とりわけ教育経営者・指導者の育成課程が緊急に検討されねばなりません。またこの分野での世界の第一人者のスカウトも考えられます。

経営の立場から考えると、奈良教育大学の規模は小さすぎます。また県内の教員養成というミッションだけでは、優秀な学生を惹きつけることが難しくなってくるでしょう。今のままではギリ貧になっていく恐れがあります。しかし単なる合併によって、問題解決が出来る訳ではありません。

考えられる将来の方向は、三つあります。一つは、フィンランドの教育改革にみられるように、現職教員の再教育、レベルアップが大きな使命となってくることです。このため、大学院の拡充（ドクターコ

二つめの方向は、地域の教育力向上への貢献です。すでに県内各市との提携で、不登校児に対する支援等に着手しておられますが、もっと広く、深く、各地域の教育力向上、子育て支援に、大学及び卒業生組織が積極的に貢献することが期待されてくるでしょう。

第三は、国内、海外の大学との提携を進めることによって、学生の学びの多様化とレベルアップを図ることです。自前主義での問題解決は難しい。経営陣の柔軟な思考と迅速な行動、及び教授陣の飽くなき向上心が、将来の発展のカギを握っていると思います。